

瑞浪市化石博物館研究報告 第 53 卷, 第 1 号, p. 45–47, 1 fig.

Bulletin of the Mizunami Fossil Museum, vol. 53, no. 1, p. 45–47, 1 fig.

©2026, Mizunami Fossil Museum

Manuscript accepted on December 20, 2025; online published on March 27, 2026

<https://zoobank.org/urn:lsid:zoobank.org:pub:E76C7BBF-80F2-45DF-B064-A7CAD88E021A>

— 資料 (Miscellaneous) —

## 愛知県の中新統設楽層群のエビジャコ類について

柄沢宏明<sup>1)</sup>・加藤久佳<sup>2)</sup>・小林伸明<sup>3)</sup>

1) 瑞浪市化石博物館 〒509-6132 瑞浪市明世町山野内 1-47

2) 千葉県立中央博物館 〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2

3) 〒443-0046 愛知県蒲郡市竹谷町道泉 5-1

## On a crangonid shrimp (Decapoda: Caridea) from the Lower Miocene Shidara Group, central Japan

Hiroaki Karasawa<sup>1)</sup>, Hisayoshi Kato<sup>2)</sup> and Nobuaki Kobayashi<sup>3)</sup>

1) Mizunami Fossil Museum, Yamanouchi, Akeyo, Mizunami, Gifu 509-6132, Japan

< gha06103@nifty.com >

2) Natural History Museum and Institute, Chiba, 955-2, Aoba-cho, Chiba 260-8682, Japan

< katoh@chiba-muse.or.jp >

3) Dosen 5-1, Takenoya-cho, Gamagori, Aichi 443-0046, Japan

### Abstract

A single specimen of an undetermined genus and species of Crangonidae (Caridea) is reported from the Lower Miocene (Burdigalian) Shimoda Formation of the Shidara Group in Aichi Prefecture, central Japan. The specimen represents the first and oldest fossil record to Crangonidae of Japan.

*Key words:* Decapoda, Caridea, Crangonoidea, Miocene

### 1. はじめに

今泉力蔵博士(1915–1977 年)は, 東北大学教養部(現 東北大学教養教育院)で日本産十脚類化石の研究に従事し多数の業績を残した(今泉力蔵教授業績顕彰記念会, 1978). 今泉博士の十脚類化石コレクションは, 現在, 東北大学総合学術博物館に保管されているが, その中には未報告の標本がある. 筆者らのうち加藤と柄沢がそのコレクションを調査した際, 未報告の愛知県の設楽層群産エビ

様化石を見出し研究する機会が与えられた. 検討の結果, 標本の保存状態は悪いが, エビジャコ科に所属することが判明したのでここに記録したい.

### 2. エビジャコ科の未定属種について

標本: IGPS coll. cat. no. 113007 (東北大学総合学術博物館収蔵).

産地: 標本とともに保存されていた書簡には, 化石は愛知県北設楽郡東栄町下奈根小尻平 (= 愛

知県北設楽郡東栄町大字三輪字下奈根小尻平)から見つかったと記されている。著者の一人、小林は現地踏査を行ったものの化石を産したと思われる露頭を確認できなかった。柴田・伊奈(1983)に基づき、産地は設楽層群下田層の分布域に含まれる。なお、設楽層群下田層の地質年代は、前期中新世(ブルディガラ期)とされる(星・齋田, 2009)。

保存状態: 標本は、背側から押しつぶされ変形が著しく保存不良であるが、甲、腹部および各種付属肢が残る。額角は保存されていないが、残存部の甲長は 32 mm である。甲には、少なくとも正中隆起(mc), 1 対の眼窩後部隆起(pc)と1対の胃域に側方から斜走する隆起(goc)が認められるが、甲面を装飾する顆粒や棘は残っていない。鰓外歯(bt)は三角形で基部で幅が広い。腹部腹節 1-6(Ps1-6)と尾扇(T)は全て残るが、表面装飾は変形のため判別できない。右眼(E)の基部が残る。第 2 触角(A2)の基部、鞭と幅が広い触角鱗(Sc)が判別できる。第 1 脚と触角鱗に挟まれ第 3 顎脚(Mxp3, M)が残る。第 1 脚(P1)は長く、ハサミ脚(P1c)はエビジャコ科に特徴的な不完全鉗をもつ。細い第 2 脚(P2)と第 3 脚(P3)および第 4 脚(P4)と第 5 脚(P5)も残るが詳細な特徴は判らない。著しく変形した胸甲(Ts)が残る。少なくとも右側の第 1 腹肢(P11)と第 2 腹肢(P12)が判別できる。

備考: 現在のエビジャコ科は 23 属 236 種を包有し、世界中の海洋に分布している(DecaNet eds., 2025)。エビジャコ科の化石記録は未だ少なく、レバノンの白亜系、デンマークの始新統およびロシアの中新統から 4 属 5 種が知られているのみである(Schweitzer et al., 2023; DecaNet eds., 2025)。

本標本は、エビジャコ科に特徴的な第 1 脚に不完全鉗を持つため本科に所属する。しかし、属の帰属については額角や第 2 脚の形質が必要とされるため(Poore and Ahyong, 2023)、本標本をエビジャコ科の未定属種とすることにどめた。

日本産コエビ下目の化石記録は、群馬県の中新統から *Pandalus orientalis* Niino, 1951 (タラバエビ科)と西南日本の中新統と更新統からテッポウエビ科の *Alpheus* sp. (柄沢・小林, 2026) のわずか 2 種があるのみであった。したがって、エビジャコ科が新たに日本産コエビ下目化石に追加されることとなる。

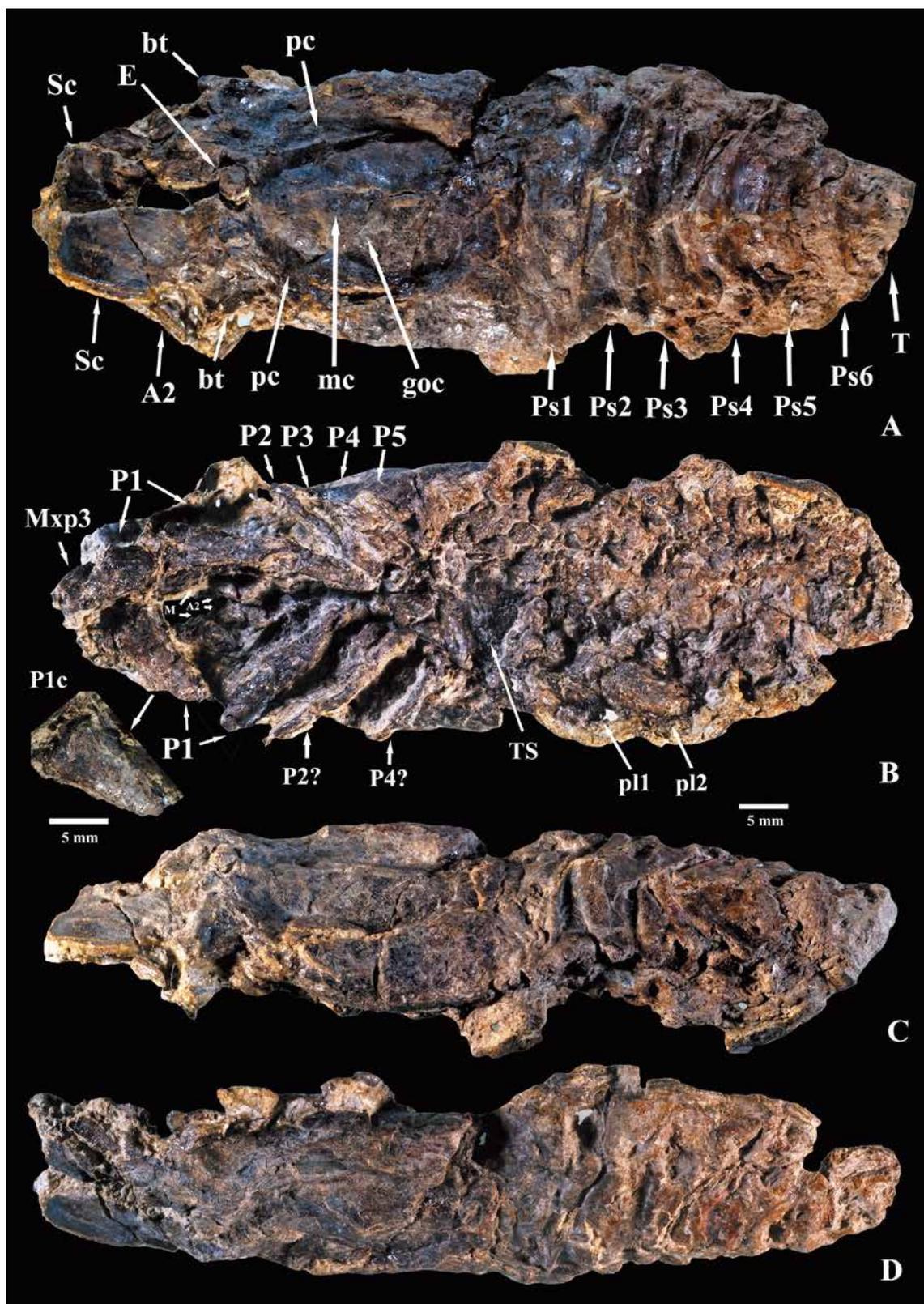
### 3. 謝 辞

今泉力蔵博士の十脚類化石コレクションの調査に

あたってご協力いただいた東北大学総合学術博物館の根本 潤氏に心からお礼申し上げます。

### 4. 引用文献

- DecaNet eds. 2025. DecaNet. Crangonidae Haworth, 1825. Accessed at: <https://www.deanet.info/aphia.php?p=taxdetails&id=106782> on 2025-12-02.
- 星 博幸・齋田卓哉. 2009. 愛知県設楽地域に分布する北設楽層群(下部中新統)の磁気層序. 地質学雑誌 115(5): 193-205.  
DOI: 10.5575/geosoc.115.193
- 今泉力蔵教授業績顕彰記念会. 1978. 序. In 日本産化石甲殻類, とくに貝甲類および軟甲類の分類. 今泉力蔵教授業績顕彰記念会. 仙台市. p. I-VII.  
DOI: 10.11501/9670255
- 柴田 博・伊奈治行. 1983. 愛知県設楽層群の貝類および植物化石. 瑞浪市化石博物館専報 4: 1-89.  
DOI: 10.11501/9671897
- 柄沢宏明・小林伸明. 2026. 日本産化石テッポウエビ類の追加記録. 瑞浪市化石博物館研究報告 53(1): 33-36.  
DOI: 10.50897/bmfm53.1\_33
- Niino, H. 1951. Description of some fossil fishes and prawns from Japan. Journal of the Tokyo University of Fisheries 38(1): 49-58.
- Poore, G. C. B., and S. T. Ahyong. 2023. Marine Decapod Crustacea. A guide to families and genera of the World. CSIRO Publishing/CRC Press. Melbourne/Boca Raton. 916 p.  
DOI: 10.1071/9781486311798
- Schweitzer, C. E., R. M. Feldmann, D. Audo, S. Charbonnier, A. Garassino, G. Schweigert, and S. Sudarsky. 2023. Part R, Revised, Volume 1. Systematic descriptions: Infraorders Procaridea, Stenopodea, Caridea. Treatise Online 175: 1-33.  
DOI: 10.17161/to.vi.21568



第1図. エビジャコ科の未定属種. IGPS coll. cat. no. 113007. 愛知県東栄町; 設楽層群下田層; 前期中新世(ブルディガラ期). A, 背面; B, 腹面; C, D, 側面. 略記: A2, 第2触角; bt, 鰓外歯; E, 眼; goc, 胃域に側方から斜走する隆起; mc, 正中隆起; Mxp3, 第3顎脚; P1-5, 第1-第5脚; P1c, 第1脚のハサミ脚; pc, 眼窩後部隆起; pl1-2, 第1-2腹肢; Ps1-6, 腹部腹節1-6; Sc, 触角鱗; T, 尾扇; Ts, 胸甲.

**Fig. 1. Crangonidae genus and species indeterminate.** IGPS coll. cat. no. 113007, from the Lower Miocene (Burdigalian) Shimoda Formation of the Shidara Group in Tōei-cho, Aichi Prefecture. A, dorsal; B, ventral; C, D, lateral views. Abbreviations: A2, antenna; bt, branchiostegal tooth; E, eye; goc, oblique carina on gastric region; mc, median carina; Mxp3, M, maxilliped 3; P1-5, pereiopods 1-5; P1c, chela of P1; pc, postorbital carina; pl1-2, pleopods 1-2; Ps1-6, pleonal somites 1-6; Sc, scaphocerite; T, telson; Ts, thoracic sternum.

